

バングラデシュ里親プロジェクト/現地視察2019

バングラデシュ入国

2019年1月9日、首都ダッカの国際空港に到着。

すでに国内線の出発時間が迫っていたため、急いで到着ビザを取りに並びました。

バングラデッシュの政治状況のため、日本でバングラデッシュのビザを取得できなかったのです。

ライフル銃を持った兵士が警備するピリピリした雰囲気の中、入国目的、宿泊先、招待状の有無など、細かい質問事項を埋めなくてはなりませんでした。

笑顔のお出迎え

国内線の飛行機で乗ること50分で、コックスバザール空港に到着。

笑顔で出迎えてくれたのは、ラジョーさんと息子のセナ君でした。

乗り込んだオートリキシャ（三輪車）はクラクションを鳴り響かせながら、車、人力車、バイクを抜け、信号のない道をくねくねと走ります。

凸凹する道で揺れる車と埃っぽい道、、、。

まさに、バングラデシュ到着を実感した瞬間でした。



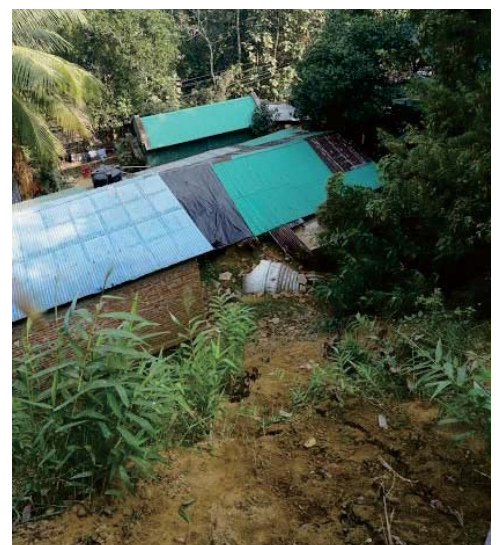
街の中にはゴミが、、、

コックスバザールは中堅の都市。
高いビルはなく、商店街にはたくさんのお店が並んでいます。

しかし住宅地の路地や川にはゴミが、、、。
至る所に落ちている大量のゴミが五感を刺激し、牛や野良犬は生ゴミをあさっています。



仏舎利塔聖園の整備



懸案事項

雨季の大雨で起こった崖崩れで仏舎利塔の1つが崩壊しました。
このため昨年、和田寺タオサンガ道場から、修理費50万円の追加助成予算を組んで、寄付しました。

街のパワースポットに

カオスの街から、丘の上のアースキャラバン管理の仏舎利塔公園に登ると、風景が一変します。管理人のおじさんが育てた綺麗な花を咲かせ、植物は葉が青々としています。

丘には気持ちの良い澄んだ風が流れ、見晴らしもよく、まるで別世界です。
ここでは、子どもや大人たちがカードゲームして、のんびり過ごしています。

仏舎利塔公園にはバングラデッシュ観光客も訪れます。
人々が街の喧騒から離れてホッとできる、パワースポットになっているのです。



かつては荒れた丘に過ぎなかったけれど、、、

もともと、この仏舎利塔群の敷地が、最初から整備されていたわけではありません。実を言うと数年前までは、この聖地も荒れ果てていたのです。

初めて訪れたとき、仏舎利塔群には汚物が捨てられたりしていました。
(イスラム教徒のベンガル人には仏教を尊重する習慣がないため)
また一部を不法占拠され、仏舎利塔が倒壊するなどの被害もありました。

この聖地にも街中と同じようにゴミが捨てられ、古ぼけた仏舎利塔がある汚れた丘に過ぎなかったのです。



仏舎利塔を聖地公園にしたアースキャラバン

仏舎利塔の惨状を嘆くラジョーさんを見て、アースキャラバンは考えました。

まず、コックスバザールにいる仏教徒の大学生を集めてもらい、一緒に掃除道具を買いに行きました。そして、1日かけて、公園の掃除を行ったのです。

その後、アースキャラバンは仏舎利塔の色の塗り替え、建造物のメンテナンスなど、さらに整備を進めて行きました。

数年前からは2人の管理人を雇い、日々清掃、植物の世話などをしてもらい、この聖地公園を造って来たのです。

運営している3つの小学校の視察

◆クルスクル村

クルスクルは海辺の近くにある村で、ここにもラカイン族のためのアースキャラバン小学校があります。（幼稚園児のクラスもあります）

教えている教科は、英語、数学、ベンガル語。そして彼らの独自の言語であるラカイン語です。

子供達が減っているのが気になり校長先生に尋ねました。すると、親の希望で他の学校に行った子供たちもいるし、他の村に引っ越した子もいるとのこと。

また、朝の2時間だけ教えるよう授業時間を変更したことも聞きました。しかし、これまで本部には、あまり現場の諸々の事情が伝わっていませんでした。このため、今後は密に連絡を取り合うことをお互いに確認しました。



<はじめは緊張した面持ちの子どもたちですが、次第に慣れてくると素敵な笑顔を見せてくれました>



<先生や親たちの要請で制服も作りました>

クルスクル村の里子のセンセンちゃんが高校生になりました。訪問した時には会えなかったのですが、里親さんからの手紙は、お父さんに託してきました。

家には親戚の女性たちも一緒に暮らしています。みんなで支え合っているラカインの人々の暮らしを垣間見ることができました。



◆チョフロンギ村

クルスクル村からオートリキシャで30分くらい走ると、チョフロンギ村です。
昨年は、屋根を修復し、新校舎を完成させました。
(今まで子供たちはお寺の下の地面で勉強していました)

村長さんも、”これからは子供たちも、雨風の心配をせずに勉強出来ます”と喜んでいました。



<子供たちが花束で出迎えてくれる中、テープカットして校舎の中に入りました>

もっとも、教室の中の設備はまだ完全には整っていません。ゴザや夏場の暑さをしのぐ扇風機も必要です。

早速先生用の机と椅子、ゴザ、扇風機、その他、電気工事の見積りをお願いしました。

新しい先生と会いましたが、とても誠実そうな方でした。



<左の写真が新校舎。右の写真が新しい先生>

ボールペンとノート、小さなお菓子などを子どもたちにプレゼントしました。



<子どもたちは一人一人、ラカイン式のお辞儀で丁寧に受け取ってくれ、こちらが恐縮してしまうほどでした>



<プレゼントをもらって嬉しそうな子供たち>

高校生になった里子も遊びにきてくれました。初めて見た時よりも、ずっとお姉さんになっていました。また、これまで写真でしか見ていなかった子どもたちにも会えました。

こうしてあらためて子どもたちの成長を見ることができて、とても嬉しく思いました。

このような支援を続けて、嬉しそうな子供たちの笑顔を見ることができるのも、NPO会員の皆様と、里親の皆様のおかげだとしみじみ思いながら、里親さんからの手紙を渡しました。



Khin nun さん（上）とShu khine senさん（下）

左が里親プロジェクトを始めた頃の写真。右が今回訪問時の写真です。



<里子たちの嬉しそうな表情を見るのは、心が温かくなる時間でした>



◆バルバキア村

バルバキアは、アースキャラバン事務所のあるコックスバザールから、車で3時間離れたところに在る村です。

村の入り口では、心優しい村の村長さんが待ってくださいました。



<学校に到着すると、子供たちが門の前に並んで待っていてくれ、びっくりしました。右は村長さんです>

もっと驚いたことがありました。初めて会った時は不登校で、ふてくされて地面にしゃがんでいた子がいたのです。

下の写真 ↓



”里親を必ず見つけるから！”と励ましていたその子にも里親さんができ、今や立派に成長して会いに来てくれた！、、、と思ったら、なんとカレッジに行きながら、今はこの学校の先生になっていたんです！！

僻地であっても、子供の持つ可能性の素晴らしさに感動しました。
そしてここでも、支援して下さる皆さんへの感謝への想いを深くしました。



<今や立派な先生です！>

『人は変わることができるんだよなー。
ほんの少しの後押しと、寄り添いがあれば、、、。』

とは、次の年に彼の成長を見た遠藤りょうきゅうの[ブログ](#)ですが、それにしても、まさか先生にまでなっているとは！



<ぐるりとUの字になって座っている子どもたち>



<一人一人にプレゼントを手渡します。子供たちは、嬉しくて急いで席に戻ります>



<子供たちみんなに手紙を書てもらいました。絵を描く子がいたり、アルファベットを誇らしげに書いてくれる子もいました>

バルバキアの村のプレゼントに、遊び道具のバドミントンとボールを持って行きました。

それで「バドミントンをやりたい人？」と聞くと、ほとんどみんなが手を上げました。

「ボールで遊びたい人？」と聞くと、男の子だけ。どうやらバドミントンの方が男女ともに人気があるみたいでした。

早速外に出てバドミントンやボールで遊んでみると、なんと小学1～2年生の子もしっかりラリーができて上手に遊んでいます。



<たまにシャトルが木に引っかかって、自分の履いているサンダルを投げて上手に落としていました>



学校運営ミーティング

クルスクルとチョフロンギの先生に、アースキャラバンの事務所に来てもらって、ミーティングしました。



アースキャラバン側からの提案：

”もっと子供たちが楽しめるように、遊具を用意しましょう。
また、学校の魅力を増すために遠足も計画しましょう”。

さらに、”毎月、子どもたちのお誕生日会を開いて、その子には、小さなプレゼントを用意してあげてください”と提案しました。

要は、子どもたちには、勉強だけでなく学校を楽しんでもらえるような企画を出したので、そしてその実施について、具体的な相談もしてきました。

また、学校側からの要望を聞いた上で、NPOアースキャラバン側からの要望を伝えました。

1 掃除当番を作って、学校や学校の周辺を掃除してもらおう

※バングラデシュでは町のいたるところにゴミが落ちていますが、誰も気に留めません。家の中のゴミも外に掃き出してしまいます。おそらく子供の頃から、公共の場を綺麗にする、という意識が育っていないと思いました。

アースキャラバン小学校の子供たちには、掃除をすることの大切さ、自分の居場所が綺麗になることの気持ち良さを感じて欲しい。そう思って要望したのです。皆さん、賛成されました。

2 誕生日カレンダーを作る

私達の知る限りでは、村の子供達の誕生日を祝うという習慣が無いように思いました。子供たちには、”誕生日おめでとう！”と言ってもらった経験が無いのです。

そんな子供たちに、誕生を祝ってもらう、誕生日にプレゼントをもらう、という体験を与えたいと考えました。

”月末に、その月の誕生日の子供にちょっと素敵なプレゼントを。
他の子ども達には、お菓子を上げるようにしましょう”
予算は出しますので、と提案し、了承されました。

3 年3回の遠足

村から出たことのない子もいますので、なるべく外の世界での楽しい体験を与えて上げたい、と思いました。

候補先は、水族館、動物園、東洋一の浜辺、仏舎利塔など。

ミーティングの後、遠足の候補地の1つである、できたばかりの新しい水族館に、みんなで視察に行きました。

水族館で普通に入園すると300タカ（約390円）します。
チャイ1杯がせいぜい10タカ前後であることを考えると、大変高い値段です。
団体割引で少し安くなりますが、値段よりも、一生見る機会が無い子供たちもいるので、NPOアースキャラバンの支援で実現したいと思います。



新しい学校候補の視察

コックスバザールの港からボートで20分くらい乗ったところに、モシカリ島があります。

この島の港に着いてから40分ほど車で移動したところに、新しい学校候補の村がありました。



しかし、その村には、アクセスする道がなかったのです！

なんと、車が着いてから、さらに川を歩いて上っていくと、村が忽然と現れたのです。そこはまさに秘境でした、、、。



<秘境の村>

村人全員に集まってもらってミーティングしました。

はっきり発言するお母さんも中にはいましたが、ほとんどのお母さんは控えめで、こちらから聞いてもあまり返事がありませんでした。

学校を開くまでには、大人たちの理解や熱意がとても大切なので、粘ってようやく話を聞き出しました。

それによると、子どもたちは15分ほど川を歩き、さらに狭い道を20分ぐらい歩いて、町(?)の学校に通っているそうです。

川を歩かなくてはならないから、子どもたちだけで学校に行かせるのは心配だ、とのことでした。

確かに雨季には川の水量も多くなって危険です。また、「秘境」に住む子供たちは車が通る道路に慣れていないから、さぞ危なかつしいのだろうな、とも思いました。

しかし、実際に学校が開けるかどうかは、良い先生が見つかるかどうかが大事です。

また仮に見つかっても、村のリーダー、親、学校の先生、それぞれの考えやカリキュラムの内容についての検討、さらに村の人たちの真剣さを再確認することなど、開校するまでの入念な準備が必要です。

その日は、村長さんも用事があって、村にはいませんでした。

ラジョーさんは、村の整備にお金を寄付するほど成功しているこの村の出身者を知っており、今後は村長も交えて三者の協議で、話を進めていくことになりました。



<お寺を学校として使う可能性を検分しました>

本当に必要としている支援は何なのか？

欲しいから与えるのではなく、本当に皆さんのご寄付が活かされる支援は何なのか？

これを考えながら進めていなくてはならない、とあらためて強く思いました。



<村の子供たち>

ビレッジスポンサーとしての里親

里子支援は、小学校4年生までの子どもたちに、教育を受けられる場を創ろうとして始めたことでした。

小学校4年生までなら簡単だろう、とつい考えてしまいましたが、バングラデシュにおいてはそうではありませんでした。

貧しいが故に一家の働き手になってしまい、就学出来ない子供たちも多いのです。

このため、今回の視察と活動では、里子の成長を見ることができた一方、転校、引越しなどで会うことができない里子たちもいました。

子供たちは毎年成長していき、それにしただがって環境も変化します。訪問しても会えないのは、成長し進学しているためだったり、働き手になったためである場合もあります。

その度に、支援してくださっている里親さんにはどう伝えたら良いのか？ と途方にくれるような想いになります。

そこで今回は、里子の名前を書かずに手紙を書いていただくお願いをしたのです。それは、時には毎年里子が変わってしまうようなことが起きてしまうためでした。

アースキャラバンの里親プロジェクトは、里子を通じて村全体の子供の教育や、また地域を支援するというシステムです。

極端な貧困状況にある子どもへの支援をしながら、村全体の支援者として里親プロジェクトをご支援頂けたらありがたく思います。

そして、里子を持つ里親さんには、どうか、ビレッジ・スポンサーとして、子どもたちの成長を見守っていただけたら、と思います。

なので、現在学校に通っている里子についても、その村にいる限り、高校や短大に行っても、里親としてご支援を続けていただけたら、と思います。

里親プロジェクトの趣旨の再確認にともない、今後は学校に通う村の子ども達からお便りが届くようになる予定です。

今回の訪問によって、これから大きく改革してもらわなくてはならない、と思った村もあれば、更に希望が見える村もありました。

しかし、どの村もアースキャラバンによる支援を大切に思っていることには違いはありません。

いずれにせよ、一番の喜びであり重要な点は、皆様のご支援により、子供たちが笑顔で成長しているということです。

皆様からのご支援は、確実に実を結んで、多くの子供たちを笑顔にしているということを、実感して帰ってまいりました。

いつも、ありがとうございます。これからも益々のご理解とご支援を、心からお願い申し上げます。

NPO法人アースキャラバン・里親支援プロジェクト担当
奈良あみ、石川あいき、遠藤まゆ、ラジョー



後記

今回の現地訪問でのミーティングで、遠足について相談しましたが、先日、“クルスクルの学校が、3月25日に水族館に遠足に行ってきました！”とラジョーさんから報告がありました。

写真を見ると、女の子たちははかわいらしくおめかしをしていますね。はじめての遠足なので皆、期待にワクワクしながら、準備したのではないかなと思います。

いつも、ありがとうございます。みなさまのご支援のおかげで、子供達に素敵な思い出をプレゼントすることができました！

